

経営比較分析表（平成28年度決算）

岐阜県 御嵩町

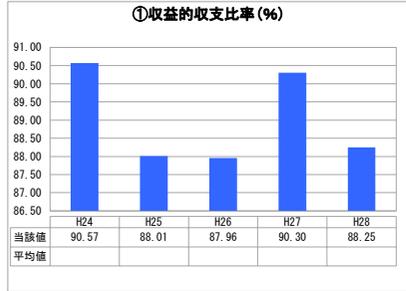
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	66.28	74.12	3,240

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,628	56.69	328.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,299	5.45	2,256.70

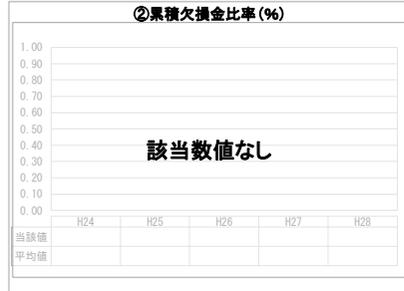
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



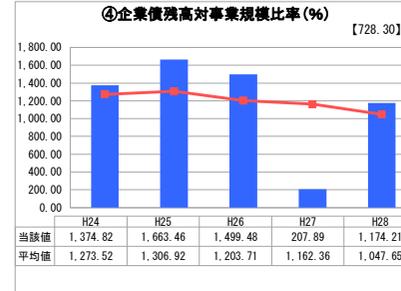
「単年度の収支」



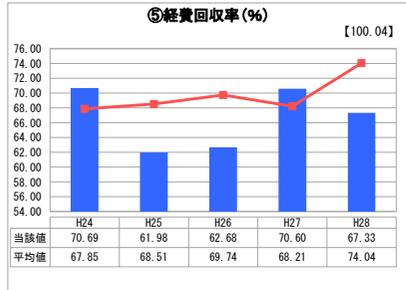
「累積欠損」



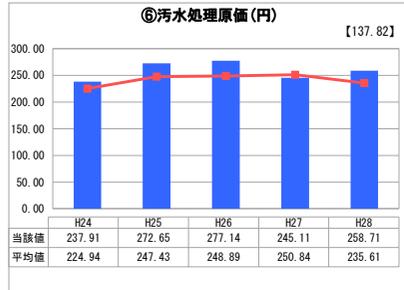
「支払能力」



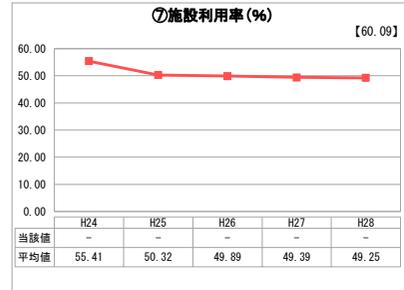
「債務残高」



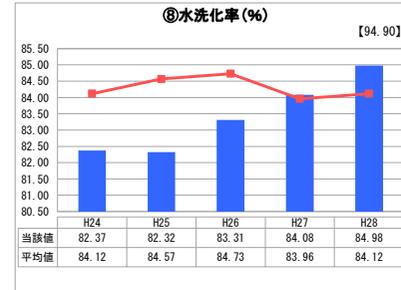
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

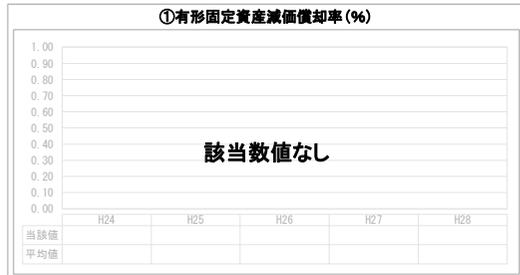


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

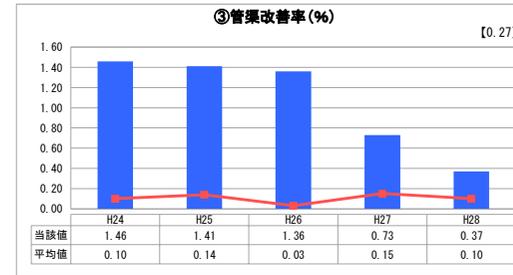
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

平成28年度の①収益的収支比率は前年度と比較し2%程度減少している。これは、下水道使用料は前年度より増加しているが、施設整備に伴う起債の償還金（借金の返済金）や維持管理費も増えているため、減少している。④企業債残高対事業規模比率は借入を1億円までに抑え、借入よりも多くの償還を行っていることから年々減少している。⑤経費回収率は下水道使用料の収入増加以上に、マンホールポンプの維持工事や地方公営企業移行業務による委託費の増もあり、前年度より減少している。⑧水洗化率は前年度から上昇しており、下水道整備や水洗化への取組みを引き続き推進していきたい。

2. 老朽化の状況について

御嵩町の下水道施設は平成3年度より整備されており、供用開始は平成8年度から行っております。開発団地の汚水施設を接続し、布設が40年を超える管渠施設については、長寿命化対策事業により管渠更生を実施しています。（平成28年度は大庭台団地の残管渠更生必要箇所の施工を実施）今後、下水道施設の維持管理をしていくため、長寿命化対策事業の対象外施設については、ストックマネジメント（既存の建築物を有効に活用し、長寿命化を図る体系的な手法）の導入を検討し、既存の下水道施設の点検や評価を行い、維持管理主体の事業に備えていきます。

全体総括

平成28年度は維持管理に要した費用が前年度と比較して多く、収益的収支比率や経費回収比率の減少が見られた。御嵩町の下水道施設については長寿命化対策事業により管渠更生を実施した一部施設を除き、平成3年度当初に布設した管渠施設は約26年経過している。今後は、平成28年度に策定済みである「御嵩町汚水処理施設整備構想」を基に下水道整備を実施していく中で、既存の下水道施設の維持管理に対し、ストックマネジメントの策定を行うことや、公営企業会計の適用による経営状況の見える化を図り、経営基盤の安定化を図る必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。